

調査相談(レファレンス)事例紹介 19



Question

黒澤明が書いた、ブルーノ・タウトがモデルのシナリオ「達磨寺のドイツ人」。なぜ映画化されなかったのかが知りたいです。



Answer

黒澤明（1910-1998）は東京都出身の映画監督・脚本家で、「羅生門」「七人の侍」「影武者」等、手がけた作品は国内外で高い評価を得ています。1985（昭和60）年には映画人として初めて文化勲章を受章しています。

ブルーノ・タウト（1880-1938）はドイツの建築家で、1934（昭和9）年から約2年間、高崎の少林山達磨寺境内にある洗心亭で過ごしました。

「達磨寺のドイツ人」は、1941（昭和16）年12月発行の雑誌「映画評論」に掲載されたシナリオです。日本の伝統文化を理解しようと達磨寺へやってきたドイツ人建築家が、世界情勢に振り回されながらも、村の住民たちと、民族の壁を越えて打ち解け合うというオリジナリティ溢れる物語です。黒澤は監督第一作目としてこのシナリオを東宝で映画化しようと計画しましたが、日中戦争の深刻化によるフィルム配給制限により、企画が潰されたと語っています。

当時は映画法（1939（昭和14）年制定）により、映画界にも国家統制が及んでいました。一カ月に生産できるフィルムが制限され、映画の制作には事前の届出や、脚本から完成作品まですべての検閲が必要でした。また、映画監督になるには試験を受けて免許証を取得しなければなりません。黒澤も例外なく試験を受け、無事合格したものの、フィルム配給制限のあおりを受け、なかなか監督に昇進することができなかったようです。

ちなみに、「達磨寺のドイツ人」が雑誌に掲載される際、シナリオを預かった雑誌記者が酔っ払って乗った電車の中で原稿を無くしたという事件がありました。記者に原稿を手渡した山本嘉次郎（黒澤が師と仰ぐ映画監督）は、「新聞に広告を出して捜せ」とまで抗議しましたが、広告が出ることもなかったため、せっかく世に出る機会を失うのも残念と考えた黒澤は自分の原稿の内容を思い出し、もう一度書いて印刷工場まで持っていったそうです。



参考文献

書名	責任表示	出版社	出版年	資料コード
① 蝦蟇の油 自伝のようなもの	黒沢 明／著	岩波書店	1984	01034834
② 黒沢明の世界	佐藤 忠男／[著]	三一書房	1890	02441228
③ 評伝黒澤明	堀川 弘通／著	毎日新聞社	2000	08683187
④ 全集黒澤明 第一巻	黒沢 明／著	岩波書店	1987	00895342
⑤ 群馬県史 通史編 9	群馬県史編さん委員会／編	群馬県	1990	00415489

今回ご紹介した他にも調査相談（レファレンス）事例をホームページに多数ご紹介しています。

【群馬県立図書館ホームページ＞調査相談＞調査相談事例・郷土人物データベース】

お問い合わせ：群馬県立図書館 〒371-0017 前橋市日吉町1丁目9-1 電話：027-231-3008